

令和4年度 県立牛久栄進高等学校自己評価表

目指す 学校像	変化の激しい社会環境に柔軟に対応しつつ、多様性を尊重し、新しい価値を創造するに必要な自主自律の態度と豊かな人間性を身につけた創造性豊かな人 材を育てる学校			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成 状況
普通科単位制高校に改編した平成10年以降、「活力ある進学校づくりー単位制のメリットを生かし、主体的に学習する生徒の育成ー」を一貫して組織目標として継承、「活力ある進学校」、「個に応じた学習指導」、「自主独立の人づくり」を中期的目標として、教職員と生徒との信頼関係をもとに学校全体が一つになって取り組んできた。その結果、全国の国公立大学、私立大学等への進学者を多数、輩出することができた。これは、生徒一人一人の進路希望実現に向け、単位制の特長を最大限に生かして、きめ細かな教科指導・進路指導に取り組んできた結果と考えられる。単位制改編後の飛躍的な進路実績の躍進を評価するとともに、今後も単位制の特性を生かした様々な取組みを積極的に推し進め、生徒一人一人の進路希望を実現していきたい。 また、規範意識を高める教育を継続して進めるとともに、豊かな心を育てる教育や安全・防災教育にも力を注ぐ。 さらに、ICT教育など社会の変化に対応した教育環境づくりに取り組む。		教科指導 ー主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業展開ー	ア 新学習指導要領に対応した、単位制のメリットを生かす教育課程の編成及び主体的・対話的で深い学びの実現を目指した質の高い授業を目指し、生徒の学力向上を図る。 イ カリキュラムマネジメントの視点から教科を越えた協働体制を構築し、「チーム栄進」として新学習指導要領に対応できる教育活動を実践する。 ウ 観点別評価についての研修を実施し、評価のベースを作る。教科内におけるコンセンサスを獲得する。	
		特別活動 ー積極的に参画する活動の促進ー	ア 生徒会活動、部活動、学校行事をとおして自主的精神を養い、行動力を培うとともに、より良い人間関係の形成を図る。 イ キャリアパスポートを活用して自己理解を深め、生徒が自己の良さを生かし、自己肯定感を得られるようにする。 ウ 生徒同士、教職員と生徒が相互に敬意を持って学校行事などに参加し、活力ある学校づくりを推進する。	
		生徒指導 ー良識ある行動をとり、自己表現ができる生徒の育成ー	ア 成人年齢の18歳への引き下げを視野に入れ、学校生活全般に於いて生徒の規範意識の高揚と道徳的実践力の向上を図り、自律的で調和のとれた生徒を育てる。 イ 他者を尊重する態度を養い、生命の尊さを認識させるとともに、安全教育を重んじて生徒の危機察知及び危機回避能力を高め、事故やいじめの未然防止に努める。 ウ 良好な人間関係の構築と適切な自己表現・自己開示ができる生徒を育てる。	
		進路指導 ー生徒一人一人の進路希望の実現を目指した丁寧な指導ー	ア 教員一人一人が進路指導力を高め、生徒の進路希望を高い次元で実現できるよう全教員で研鑽に努める。 イ 各年次や各教科と「進路指導部」が連携し、保護者も含めて生徒に対し、適切な情報提供・及び面談・学習指導の充実を図る。	
		国際理解教育の推進 ー国際交流と海外派遣ー	ア 国際交流事業を通じて視野を広め、世界各国の文化への理解を深めることで、グローバル社会で活躍する人材を育成する。 イ 海外派遣等を実施し、体験をとおして、自国の文化の理解を深め、異文化を理解・尊重する国際協調の精神を育てる おして、自国の文化の理解を深め、異文化を理解・尊重する国際協調の精神を育てる。	
		保護者及び地域社会との連携	ア 学校HPや各種メディアを活用し、本校の教育活動や学校情報を積極的に広報・発信	

		ー地域に開かれた学校づくりの推進ー	する。 イ 保護者と学校が連携を密にし、生徒の健全育成と進路希望の実現に向けて協働・支援する。 ウ 学校説明会や各種説明会、中学校訪問をとおして、中学生や地域社会に本校についての理解を更に深めてもらう。 エ 地域との連携を強化して、地域活動等にも積極的に協力し、地域社会の期待に応え、信頼される学校作りに努める。			
		学びがいのある環境・働きがいのある環境づくりー環境整備と働き方改革の推進ー	ア 国や県の施策を踏まえ、教職員が同僚性を尊重し、教育の質の向上が図れるよう、働き方改革を推進する。 イ 事務室と連携を図り、生徒の学習環境、職員の働く環境をハード面・ソフト面で整備する ウ 危機管理を意識し、整理整頓清掃を心がけ、学びやすく働きやすい職場環境を構築する。			
三つの方針			具体的目標			
「3つの方針」 (スクール・ポリシー)		「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	・広範な知識、優れた技能、広い視野に立つ判断力を備え、各分野・領域において多様な人々と協働し、自ら問いをたて、課題を見つけ、暮らしやすい社会の創造に寄与するために常に学び続ける人材を育成する。 ・適切な自己表現・自己開示ができ、良好な人間関係の構築を目指す人材を育成する。			
		「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	・単位制高校として、多様な興味・関心に対応した多様な科目選択が可能な教育課程を編成し、実施する。 ・主体的な工夫や改善を伴って知識・技能を習得し、その過程で培われる見方・考え方を働かせて、自然、社会、人間、衣食住、健康、スポーツ、文化、芸術、地域等に関する深い洞察力、的確な判断力、根拠に基づいて説明する力の育成を目指した学びを実施する。			
		「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	・知的好奇心が豊かで、自分の興味・関心を追い求めかつ利他の心を大切にする生徒 ・学校内外での様々な活動に積極的に参画し、目標や夢を設定し、自己実現を達成しようとする生徒 ・学び続けることで習得する知見や技術を未来の社会に役立てる意欲がある生徒			
評価項目	具体的目標		具体的方策		評価	次年度（学期）への主な課題
教科指導	自ら考え学ぶ姿勢の育成と確かな学力を身につけさせるための工夫改善に努める。		生徒が自ら課題を設定し、主体的に探究する姿勢を育成するため、思考力・判断力・表現力を問う授業や知識・技能を活用する授業への転換を図る。			
			生徒が目的意識をもって自主的、意欲的、継続的に学習する態度を育成するため、各教科、各年次における週末課題や、生活・学習の記録「進路手帳」等の活用について連携する。			
	学習指導法の改善に努める。		生徒一人一人の能力・進路に応じて、少人数授業・T T授業・小テスト・学力向上ゼミ等を実施する。また、3年間を見通した指導計画に基づき、指導法や教材の選択などを工夫・研究する。			

		観点別学習指導及び観点別学習状況評価の研究に努める。	観点別学習指導の趣旨を生かした、豊かな内容ときめの細かな学習指導の研究に努め、観点別学習状況の評価について研究を進める。			
教科	国語	主体的で対話的な深い学びを実現するための指導の充実を図る。	科目担当者間の連携を密にし、相互に指導方法を研究し合うなど、学習指導の充実を図る。 I C T機器を効果的に活用しつつ、その単元に応じた生徒主体の授業を展開する。また、探究的な活動や話し合い活動などの学習活動を積極的に取り入れ、論理的な思考力と表現力の育成に努める。			
		観点別学習状況評価の研究に努め、指導の充実と計画的な授業実施を図る。	単元ごとに指導内容・評価基準を研究し、指導と評価を一体化させた計画的な授業の実施に努める。単元ごとに伸ばしたい力と評価基準を明確化し、科目担当者間で共有しながら指導にあたるよう努める。			
		基礎学力の定着を図り、発展的な学習に主体的に取り組む姿勢を育む。	学習内容の確実な習得を図るために、授業と家庭学習との連続性を重視し、予習復習の習慣をつける。			
			小テストや課題等については、そのねらいと計画を明確に示した上で、その意義を生徒自身が考え、進路目標の実現のために主体的に学習できるよう支援する体制づくりに努める。			
	地歴公民	生徒の基礎学力向上を目指した授業の工夫を行う。	小テストなどを適宜実施して、基礎的・基本的事項の定着を図る。また、視聴覚教材や I C T 機器の活用などを通じて、授業内容の充実を図る。			
		多面的なものの見方と思考力の育成を図る。	科目担当者間の連携を密にして情報交換を行うとともに、史料や各種統計資料の積極的活用、テーマ学習への取り組みなどをおし、社会的・歴史的・地理的事象に対する主体的分析力・考察力を涵養することを目標とする。			
	数学	学力の向上を目指した指導を充実する。	課題提出や小テストを定期的に行い、学習習慣の確立を図る。			
			科目担当者の連携を密にし、授業の進め方や I C T の利用に関する知識の共有、生徒の学力・論理的思考力の定着度合の分析を行い、課題を明確にして指導に生かす。			
		個に応じた授業の充実を図る。	T Tや問題演習の時間を充実させ、主体的に取り組むことのできる授業や課外を実践する。			
			相互に授業見学を実施することによって、指導技術の研鑽を図る。			
理科	日常の授業を通じて科学的な観察力・思考力を育成する。	実験や実習を効果的に取り入れ、生徒の興味・関心を高めると共に科学的な思考力の育成を図る。				
	基礎学力の充実を図り、共通テストのみではなく、2次試験の学力までの養成をはかる。	教科書を中心に基礎学力の徹底的な育成を目指し、相互の授業参観・考査問題研究を積極的に行う。さらに入試問題の研究をすすめ、教員の指導力を高める。				
保健・体育	授業内容の充実を図る。(体育)	生徒の体力向上及び個人技術の段階的な向上を図り、ゲームを工夫する。				
	体育授業における事故防止に努める。	準備運動の徹底を図り、安全・健康に留意して行動する態度を育てる。施設・設備の安全確認を励行し、事故防止に努める。				
	授業内容の充実を図る。(保健)	I C T 教材を積極的に活用した授業を展開し、健康の保持・増進のための実践的な能力を育てる。				
芸術	基礎的・基本的な内容の確実な定着を図ることにより、創造的な能力を育てる。	可能な限り個に応じた丁寧な指導を目指す。				
		芸術の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした表現をするために必要な技能を育成する。				
	生徒一人一人が、実践的・体験的な諸活動に主体的に取り組むことにより、芸術を愛好する心情を養う。	自己のイメージをもって表現を創意工夫する力や作品のよさや美しさを味わう力を養うため、鑑賞の授業を充実させる。				
		生活や社会の中の芸術や芸術文化との関わりを持てるよう授業を工夫し、さまざまなジャンルの音楽会・展覧会を紹介する。				

家庭	基礎的・基本的な知識と技術を理解させ、実践的な能力の向上を図る。	最新の情報を取り入れながら興味・関心のもてる教材を取り入れ、理解しやすい授業を工夫し展開する。			
	作品の完成・提出により達成感を持たせる。	実験・実習・視覚教材などの体験学習を多く取り入れ、ノート提出や課題など点検を通して学習態度の育成を図る。			
		実験・実習などをとおして各種技能・知識の向上を図る。			
英語	英語の学力を向上させる。	教科書の予習・復習を中心とした学習法を徹底させ、4技能のスキルアップを図る。			
		サイドリーダー、課題、長文問題集、文法問題集、単語集等、副教材を吟味し質的量的充実を図る。			
		定期考査結果、模試結果をその都度分析し、活用する。更に、英語検定の受検指導を強化し、生徒の進路実現に寄与する。			
		1年次では、CEFR A1～A2、2年次では、A2～B1 レベルの力を身につけさせることを目標とした授業を行う。1年次では、英語検定準2級、2年次では、2級の全員合格を目指す。			
	授業研究の徹底を図る。	定期的に授業研究を実施することによって、指導技術の研鑽を図る。			
		教科会等を通じて、年次内・年次間の連携を密にし、教材の共有や中・短期的教科指導法を見直し改善していく。また、使用した教材等の情報を各年次間で共有し、次年度の指導に役立てることができるようにする。			
情報	生徒の情報活用能力の育成を図る。	学校行事と連携した学習課題を題材とし、生徒の関心を高め、情報の収集・処理・発信などの実習を行う。			
		情報モラルやセキュリティなど、情報機器や情報通信ネットワークを活用していくうえで配慮すべきことを考えさせる。			
	教員の授業実践力の向上を図る。	校外の研修をとおして、優れた実践事例等に学ぶことに努める。			
教 務	授業時間の確保に努め、授業力の向上を図る。	授業交換や填補を確実に行うとともに、行事の精選・日程の工夫等により、授業時間の確保に努める。			
		授業・指導法に関する研究協議、公開授業等を実施し、授業研究週間等での相互参観を積極的に行いながら、授業の質の向上と優れた技術の共有を図るとともに、教科・年次・分掌間の連携を基にした組織的な指導体制の構築に努める。			
	単位制のメリットを生かした教育課程編成の工夫を行う。	生徒の進路実現のための効果的な教育課程編成や履修パターン等の内容を検討し、新教育課程入試に対応できるよう改善を図る。また、総合的探究の時間の充実や授業における探究型活動、教科横断的な指導の実践に努める。			
	評価方法の確立	本校に適した観点別評価の在り方を検討し、その確立により生徒の学びを適切に評価できるようにする。			
	地域社会に対して本校教育活動等の情報発信等に努める。	学校ホームページやスクールガイド等の内容を充実させる。また、Eishin オープンハイスクール・中学校説明会、学校公開等をとおして、積極的に本校の情報提供やPRを行う。			
特別活動	生徒会活動のさらなる活発化を図る。	学校行事に積極的に参加させることで、委員会活動やHR活動の活発化を図り、生徒が自主的に考えて行動できるようにする。			
	キャリアパスポートの活用	キャリアパスポートを活用し、生徒が自己理解を深め、自己肯定感を得られるようにする。			
	部活動への積極的参加を図る。	大会、コンクール等における各部の実績内容を定期的にPRすることで、部活動参加率を上げ、生徒の自主的・実践的態度を育てる。			
生徒指導	生徒の規範意識の高揚と道徳的実践力の向上を図り、自律的で調和のとれた生徒を育てる。	全職員の共通認識のもと、服装指導や登下校時のマナー指導をあらゆる機会を通じて継続的に実施する。			
		交通安全運動やマナーアップキャンペーンにおいて、生徒の主体的な参加・活動を促す。また、登下校指導への保護者の参加・協力を促進する。			

	他者を尊重する態度を養い、命の尊さを認識させるとともに、危機察知及び危機回避能力を高めて事故やいじめの未然防止に努める	通学路において、定期的に登下校指導を実施するとともに、危険箇所の把握、情報提供を実施し、事故の未然防止に努める。			
		HRや「道徳」、携帯マナー教室・交通安全講話・いじめ防止教室・薬物乱用防止教室等の学校行事をとおして、自他の人権、生命の尊重及び危機管理意識を養う。いじめの問題の克服に向けて、計画的に未然防止・早期発見につとめる。			
進路指導	生徒一人一人の希望進路実現を支援する。	「進路の足跡」「進路だより」「進路手帳」の発行、及び受験関係書籍の有効な活用を図るとともに、生徒との個別面談や学校ホームページの進路情報発信を充実させる。			
	国公立大及び難関私立大への進学率向上を支援する。	先進校視察、模試結果分析、進路検討会を行うとともに、各年次・教科と連携し、「スタディーツアー・フォーラム」等を実施し、国公立大学及び難関私立大学を目指す生徒の支援・育成を図る。			
保健厚生	生徒自らによる心身の健康管理能力を養う。	疾病予防や早期発見のために健康診断と事後指導を確実に行う。			
		心身の健康状態の把握に努め、健康相談、助言・指導を行う。			
	生徒の学校生活での福利厚生及び校舎内外の環境美化を計画的に推進する。	日本スポーツ振興センターおよび奨学生の事務取扱を円滑に行う。			
		パン・牛乳販売の連絡を円滑に行う。			
	防災意識を高め非常時に適切な行動がとれるようにする。	校内の安全点検や清掃の徹底、及び校舎内外の環境美化運動を通して生徒の美化意識を高揚させる。			
		緊急避難体制を確立させ、地震を想定した避難訓練を実施する。			
図 書 館	蔵書資料の充実を図る。	・年度当初に各教科等の購入希望図書を把握し、授業での利用を意識した蔵書資料の拡充を行う。 ・Forms を利用して生徒および教員の購入希望図書を随時つくり、時宜に合わせて購入していく。 ・新刊情報収集や小論文入試等のトレンド把握に努め、蔵書資料の充実を図る。			
	図書館利用の増加を図り、生徒の学習活動の支援をする。	・読書や学習に必要な書籍の情報を提供する。 ・感染防止に配慮し、読書スペースや学習室として安心して利用できる環境整備に努める。 ・Classroom を利用して図書委員と打ち合わせ、書籍の展示、図書館だよりの作成などに関わってもらう。			
	視聴覚機器の整備及び円滑な利用に努める。	・視聴覚機器および資料の整備・充実を図る。 ・情報部と相談しつつ学校行事等での放送機材の円滑な運用に努める。			
渉 外	会議・委員会を円滑に進める。	係分担を明確にし、わかりやすい資料で会議が円滑に進むよう十分な事前準備をする。			
	保護者が参加しやすい活動を展開する。	コロナ禍においても会員が参加しやすい研修や、興味ある内容を盛り込んだ講座を企画するために各種委員会運営を円滑に行う。			
教育相談	カウンセリングを実施する。	問題を抱える生徒の早期発見に努める。			
		生徒・保護者・職員に対する、スクールカウンセラーを活用した相談活動を行う。			
	特別支援教育の充実を図る。	特別な支援を必要とする生徒に対してより適切な支援を行う。			
		ニーズの度合いに応じてケース会議、職員会議、あるいは職員研修を実施し、共通理解を深める。			
情 報	校内での ICT 教育の促進と情報リテラシーの浸透を図る。	校内での ICT 教育を促進するために、ハード面・ソフト面の環境を整備する。職員の情報リテラシーを高めるために、『情報通信』の配布や研修を不定期に行う。			
1 年 次	基本的な生活習慣と規範意識を確立させる。	時間厳守の精神を養うため、遅刻指導や提出物の期限を守らせる指導を行う。			
		規範意識の向上をはかるため、服装指導、登校指導などを徹底する。			
	基礎学力の定着に必要な学習習慣を確立させる。	予習・復習を徹底させ、授業に大切にする姿勢を養う。			
		週課題や小テストを計画的に実施し、基礎学力の定着を図る。			
	自己分析を促し、進路選択ができるようにする。	大学・研究所訪問や職業観セミナーなどを通じて、進路選択における情報を提供する。			
		学習、特別活動や総合的な探究の時間などを記録させ、生徒の自己分析と自己理解を促す。			
2 年 次	基本的な生活習慣と学習習慣継続し、自ら学ぶ態度と基礎	生徒が自らの考えを持って取り組める授業の展開と、授業を補完する計画的な課外学習を促進し、確かな基礎学力の定着を図る。			

	学力の定着を図る。	生活・学習・面談の記録の振り返りをとおして、生徒が自らの現状を把握することで、将来を見つめながら、自主的・計画的に学習する姿勢を育成する。		
	様々な進路活動をとおして、進路意識を高めるとともに、自らの進路設計ができるようになる。	各部学科研究・オープンキャンパス・大学模擬授業・職業観セミナーを通じ、大学や仕事について知識を広め、進路意識を高めて、自ら探す姿勢が身につくように支援する。		
		小論文指導や志望理由書を作成する過程で、自己理解を深め、自ら進路設計を行う力を養う指導を行う。		
	特別活動や総合的な探究の時間をとおし、自己の在り方を見つめさせ、充実した高校生活の実現を図る。	自らの興味関心に基づいて探究活動を行い、自主的に学び態度を身につけられるように支援する。		
		道徳プラスをとおして、道徳的な考えや判断力を身につけ、自ら行動する力を育成する。		
		修学旅行と事前・事後指導をとおして、協調性や連帯感を醸成する。		
3 年 次	学力向上を目指し、個々の生徒に合わせた学習・進路指導体制の充実を図る。	授業を中心とした学習習慣の確立に加え、自分で学力を伸ばすことができるように支援を行う。		
		難易度に応じた課外の実施などにより、生徒の能力に応じた演習の場を提供し、多様な進路実現を目指す。		
		保護者対象の進路研修会を実施し、進路および生徒情報の提供と共有に努める。		
	高校3年間の総括として、生徒が充実した学校生活を送ることができるように十分な支援を行う。	最高学年としての責任感を意識させ、学校行事や各種活動をとおして、協調性とリーダーシップを育成する。		
		生徒との面談や保護者との連絡を密にして、生徒が抱える問題へのきめ細やかな対応を心がける。		

5段階評価 A：目標が十分達成された B：ある程度の成果が見られた C：取り組んだ D：取り組んだが課題を残した E：取り組まなかった